

人権つうしん

2005年 春号



みんなで人権について考えてみませんか

平成17年(2005年)3月1日発行

(年2回発行予定) 通算31号

発行 長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課
発行人 両角奎吾

長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-235-7437

F A X 026-235-7493

電子メール bunshou@pref.nagano.jp

長野オリンピックピックのとき、マスコミによるタクシートの借り上げがありました。これは、私たちタクシー会社にとつては、大変ありがたい仕事ですから、うちの会社も借り上げに喜んで応じました。

ところが、だんだんオリンピックが近づくと、社内の運転手からこんな声が聞こえ始めました。

「オリンピックでうちのタクシーみんな貸しちゃったら、あのおばあちゃん、病院に行けるかなあ」

「あのおばあちゃんだって、いつもの買い物、困るんじゃないか」

ある日の朝礼で、私は、オリンピックでのタクシートの借り上げについて、本当はどう思っているんだと運転手たちに尋ねました。すると、やはり、いつものお客様を心配する声が上がりました。

本当に、心配しているんですね。私は借り上げはやめようと決心しました。ふだん使ってくれているお客様のため、あのおばあちゃんをいつも通りに病院に連れていくために、あのおじいちゃんを買い物に連れていくために、いつもと変わらないタクシー会社でいようと考えました。

もう一つ、考えたことは、他社に電話して断られた人が、我が社に電話したらすぐに駆けつけよう、そして、普段利用していなかった新しいお客様と出会えるチャンスをつくろうということです。

今でもお客様に「あのと、来てくれたのは、お宅のタクシーだったねえ」と言われることがあります。

お客様を大切にすることは、当然売り上げアップにもつながるんです。

また、どのタクシー会社でも、やっていると思いますが、お年寄りやお体の不自由なお客様なら、玄関まで迎えに行つて荷物を持ち、必要な病院に到着してから、受付もします。どの運転手もそういうサービスが心がけています。

あるおばあさんから手紙がきました。

「お宅のタクシーに乗るの

が楽しくなった。今日ほどんな運転手さんが来るのか楽しみだ」と書いてありました。

うれしくて、早速お礼に伺いました。

そのときに

「残り少ない人生を楽しんでくれてありがとう」と、重ねてお礼を言われました。

私はたかがタクシーじゃないかとは絶対に言つてほしくありませんし、そういう気持ちで運転もしてほしくありません。

「たかがタクシー」じゃないんです。「されどタクシー」なんです。

「先義後利」業界主義からお客様主義へ」

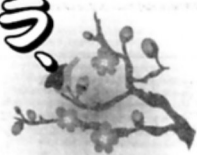
中央タクシー㈱
代表取締役
宇都宮英遠さん

二〇〇四年十一月十八日
於 松本合同庁舎
業務改善研修会



業界主義から
お客様主義へ

エラク ナツタラ、 威張つちや ゆけなゆ



今はもう、定年退職した私ですが、現役で仕事をしていた頃のことを思い出し、お話ししたいと思います。

私がまだ若かった頃、上司のあまりにも横柄な態度と上に立つ人の独特の威圧感や、上から下を見くだすような態度に我慢できず、上司と衝突したことがあります。そのような衝突が、三人の上司とのあいだでありました。それ以来、「エラクナツタラ、威張つちやいけなよ」と心の中で、自分に言い聞かせるようになっていました。

そんな私ですが、ある部署の責任者になりました。着任のあいさつは事務的に一分く

らい話して終わりました。職員はみんな「なんだー」という顔でした。

十日くらいして、朝礼の時に何気なく次のように言いました。「私は今月この職場に来たばかりですが、皆さん

は、私よりも先にここにいます。先にここにいる人は当然この先輩です。世間では年齢が上の人を「先輩」と称していますが、皆さんは年下であっても、会社に長く勤めていますので、やはり先輩なのです。とにかく、先輩同士で仲良く仕事をしようと思います。どうでしょうか。」

これで全員が何らかの先輩になり、この部署に集う職員がみんな仲良くやろうという心が出来上がりました。それから、職場内での出来事が私の耳にスムーズに入ってきたり、みんながいつしよに一つのことに気持ちよく協力できたり、いいことがたくさん

あって、風通しのよい職場になったと思います。

今、現役を終わっています。その気持ちを変えないで、仕事をしています。実は冬の間だけ、臨時で元の職場のと同じ仕事を頼まれてやっています。不思議と現役の頃より、やわらかい毎日が過ぎているような気がします。

自分が同じ立場になったら、よく考えて行動しようと思いに決めたのは、若い頃の上司との衝突がきっかけでした。その方はたいへん力がある人で、すばらしい仕事をしましたが、何せすごく威張っている人でした。誰も何も言えなくなってしまうのです。

それからは、「エラクナツタラ、威張つちやいけなよ」をモットーに、やたら威張らず過ごそうと思ったわけです。今、臨時の仕事と年数回の信州大学の公開講座に生きがいを感じながら、充実した毎日を送っています。

山ノ内町 畔上勇一さん

電話が鳴った

ある町の人権センターの電話が鳴った。



「つかぬことをお聞きしますが、そちらの町の〇〇地区は同和地区ですか？」

職員が

「どちら様ですか？」と聞いたら、

「それなら、いいです。」
と言って電話が切れた。

この人はなぜ電話をしたのですか。

この地区が同和地区であるかどうかを知る必要があるのですか。

何が気になって電話をしたのですか。



地域人権ネット 登録団体の紹介

ハンドインハンド 和楽 (飯田市)

市民の活動グループ「和楽」!!


発 足 1992年(平成4年)12月 活動場所 飯田市白山町3丁目 和楽

和楽の基本理念

- ・国籍にとらわれることなく、同じ人間として対等に付き合うこと。
- ・共に学び、共に生活する仲間関係を育てていくこと。
- ・互いに理解し信頼しあって、安心して快適に暮らせる街にすること。


活動の目的

- ・交流・発表・研修の機会を提供します。
- ・人と人とのつながりからネットワークをつくります。
- ・みんなが主人公の活動、長続きする活動を目指します。



主な活動

- 日本語教室の開設
 - ・和楽教室 毎週土曜日13:30~16:00
 - ・ブラジル教室 毎週日曜日午後
- 交流活動
 - ・研修会、シンポジウム、トークセッション
 - ・スプリングパーティー、キャンプ
 - ・他団体、市町村主催の研修会及び交流活動
- 調査研究活動
- 外国人の自立支援のための直接的活動
 - ・公の相談及び相談窓口の紹介
 - ・地域行事・イベント・集会等の紹介
 - ・日常生活における悩みや苦情の相談・助言及びその処理



代表の座光寺良子さんの話



ある時、痴呆症になった義理のお母さんが縫い物を作って私にくれるというのです。私がそれをもらったら、お母さんはとても喜びました。その時「人は痴呆になっても張り合いをもって生きられるんだ」と感じました。平成4年「やる気さえあれば何かできるのではないか」「お年寄りの作品を置いたり、自由に集まって話ができたり、勉強できたりするところになりたい」という願いから、和楽という店を始めました。みんなが集え、学習できる場をつくり、グループの活動が始まりました。その頃、飯田にも中国から帰国された方々やいろいろな国から日本へ来られた方々が増えてきました。「その人たちが安心して住めるような場所もあればいいな」という思いも重なって、和楽もいろいろな活動をするようになりました。

※痴呆症について：昨年11月19日に開かれた「『痴呆』に替わる用語に関する検討会」において「認知症」が「痴呆症」に替わる適切な用語として決定され、最終答申は12月24日に提出されました。それに基づいて、厚生労働省では来年度の介護保険法の改定にあわせて「痴呆」の用語を「認知症」と変更する方針です。

専 門 記 事

子供たちからの メッセージ



新潟に住んでいるわたしのおじいちゃん

私のおじいちゃんは、新潟にひとり住んでいます。お母さんから聞いた話ですが、おばあちゃんは、私がまだ生まれていないときに病気でなくなりました。なので、私はおばあちゃんに一回も会ったことがありません。

おじいちゃんには五人の子供もいます。おじさんがおじいちゃんの部屋も用意して、いっしょに住もうと言っていますが、十五年も一人で暮らしています。

おじいちゃんの家には、夏休みや冬休みなどの長い休みの時に行きます。夏休みはだいたい一週間ぐらいとまります。そのときには、いとこたちも集まってくるので、全部で十三〜十四人ぐらいの人数になります。

そんな私たちを、おじいちゃんは、「来たなあ。」と迎えてくれます。

おじいちゃんは、料理がとても得意です。中でも、たくあんのつけものがおいしいです。

おじいちゃんに

「おいっすね。」

と言っとおじいちゃんに、

「そうかい、よかった。」

と言います。



タラの芽、こごみ、ワラビ、こしあぶら、ゼンマイなどです。中でも、こごみをマヨネーズやしょうゆをつけて食べるととてもおいしいです。他にも天ぷらにするとおいしい山菜があります。このごろはクマが出るというので、すずやラジオをつけて山へ出かけます。夏になると山へ行って、カブトムシをとってきてくれます。

おじいちゃんに感謝していることは、二つあります。一つ目は、おじいちゃんは野菜作りをしていて、野菜のことに詳しいので、いろいろなことを教えてくれることです。他にもいろいろなことを教えてくれます。それにおじいちゃんが作った野菜やお米をもらえます。

二つ目は、冬の時のことです。いとこたちとスキーを庭でやっていて、つかれたからスキーをやめようとして、片付けようとしたら、おじいちゃんが、

「楽しかったあとは、かたづけとくから。」

と言ってくれたことがあります。私は、おじいちゃんの家に行ったときには、食器を洗ったり、畑に行つてトマトやキュウリやナスをとるお手伝いをします。これからも長生きしてほしいと願っています。

(上田市立東塩田小学校 六年 藤井 舞さん)

東塩田小学校では
人権教育の中に生活つづり
方学習を位置づけ、家族や
友だち、地域のことを思い
やりながら、自分の言葉で
作文として書き残しました。
舞さんの暖かい気持ちが
伝わってきますね。

